

<内科通信 5月 25日号>

新緑の季節となり、栃木も少しずつ暑くなってきました。今月は国内外で学会シーズンです。多くの内科の先生たちが発表してくれています。新年度になって早くも3回目の内科通信となります。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今回は内科学講座主任教授の杉山教授よりご挨拶と呼吸器内科のご紹介を頂いております。



自治医科大学内科学講座は現在、循環、消化、呼吸、血液、内分泌代謝、アレルギーリウマチ、腎臓、神経の8内科で構成され、サテライト部門として感染症科があります。さらに本年秋には総合内科(仮称)を加えて構成するよう安田病院長からご指示を頂いております。この内科学講座は開学以来、全国の大学にさきがけて縦割り臓器別内科となっており、きわめて専門性の高い先鋭的な集団として発展してきました。そしてさらに今後は現在の総合診療部をパワーアップし、横糸としての機能を加えて総合的な医療と高度の専門性を合わせ持った集団として、地域医療と内科学の発展に寄与していきたいと考えています。

次に私のテリトリーであります呼吸器内科学部門について紹介したいと思います。呼吸器内科はベッド数48床で年間の入院患者数668人(H24)、外来患者数年間20,665人(H24)です。入院患者さんは最近では肺癌が増えていますが、その他間質性肺炎、各種の細菌性肺炎、COPD、喘息、稀少な肺疾患など様々な方が入院されてきます。全国的にも呼吸器専門医が不足しており、専門機関が北関東でも多くない為、北関東地域での難しい症例が自治医大にどんどん送られてくる状況です。従って我々が最後の砦なので責任重大ですが、この地域の代表として皆で頑張っています。

呼吸器内科は内科学の古典的な面が色濃く残っている科だと常々思っています。まず、病歴を詳しく聞くことが重要で、うちの科が恐らく一番詳しい病歴を取っていると思います。仕事の詳しい内容、タバコを含めた日常生活、ペット、住居の様子、周辺の環境、趣味、こういったすべての事の中に疾患を解くヒントが隠されているからです。こういった所も呼吸器内科の面白い所です。例えば、趣味で鎌倉彫りをしていると、その過程でのマコモズミ(黒カビ孢子)による過敏性肺炎になりうる、といった所です。呼吸器内科で身につく技術としては、胸部X線写真等の画像の読影力、呼吸管理、肺炎を初めとする感染症治療法、喘息・COPDの治療法、固形癌の代表である肺癌の治療法、気管支鏡などで、これらはすべて内科医として長く活躍するには大きな武器となるものばかりです。是非皆さんも、呼吸器内科の多彩な疾患にふれて頂き、内科医としての基礎をかためて欲しいと思っています。

呼吸器の領域には本当に様々な疾患がありますが、私の専門としている「びまん性肺疾患」の中にもlymphangiomyomatosis、肺胞微石症、肺胞蛋白症、Langerhans細胞組織球症などの変わった

疾患が多数あります。近年、こういった疾患の中から、遺伝子の異常が徐々に解明され、原因が明らかにされてきたものもあります。また、このグループで最も注目されるのが特発性肺線維症です。私は現在、厚生省難治性疾患研究班である「びまん性肺疾患に関する調査研究班」の班長を拝命しており、全国の約40名の代表的な先生方と共にこの超難病の治療の研究をしています。

この様にきわめて忙しい臨床の毎日ですが、大学の組織として、基礎研究も重要と考えています。この方面は主に、大学院生にお願いして、臨床での課題をそれぞれの基礎のエキスパートの元で研究して頂いております。その中で、最近のホームランは当科の大学院生（当時）の曾田学先生が、ゲノム機能の間野教授の指導により、肺癌の新規遺伝子 EML4-ALK を発見したことです。この研究は Nature 誌にも掲載され、大きな反響をよぶと共に、早速阻害薬を用いた治療が始まり、現に患者さんを救っているという所が素晴らしいところです。今、肺癌学会ではこの EML4-ALK は EGFR 変異と共に大変重要な課題となっており、毎回大きなセッション、シンポジウムが組まれています。

自治医大の呼吸器内科はそれ程大きな医局ではなく（むしろ小さい）、仕事も忙しいですが、大変家庭的で暖かい、すばらしい医局だと私は常々感じています。これからも皆で力を合わせて、北関東の呼吸器の灯を守り続ける所存です。是非皆さんもこの“呼吸器内科の家”を訪ねてきて下さい。大歓迎しますよ。

呼吸器内科教授 杉山幸比古

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

神経内科より 2 名のレジデントの声を紹介します。

医者一年目の最初の研修先が神経内科でした。学生時代に感じていた臨床研修に対する不安というものを、神経内科は全てカバーしてくれました。初期研修を行う場所としては最適でしょう。

同期のレジデントも同じ科に数人いるし、グループの先生方のご指導も手厚く、他のグループの先生方までサポートしてくれます。たった一人で混乱しながら患者さんを危険に晒すようなことはありません。安心です。

科全体で仕事を分担しているので、休日は必ず確保されています。土日のどちらか一日は必ず休みだし、工夫すれば二連休にすることも可能です。

症例数が多く、それでもしっかりと指導を受けることができ、かつ同期が沢山いるということは凄く魅力的な事だと思います。

J1 天海 裕至（岩手医科大学）

神経内科はカンファでも色々研修医や学生に教育的で、とても学ぶことが多いです。一緒に回るローテーターの研修医も多いので、楽しく仕事をしています。上級医の先生もとても優しく、とても相談しやすい環境だと思います。

疾患は脳梗塞などの一般的な疾患から痙攣重積発作や脳炎などの疾患まで多数経験することができます。是非皆さんも自治医科大学と一緒に研修しましょう。

S1 堀江 義政（東海大学）

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

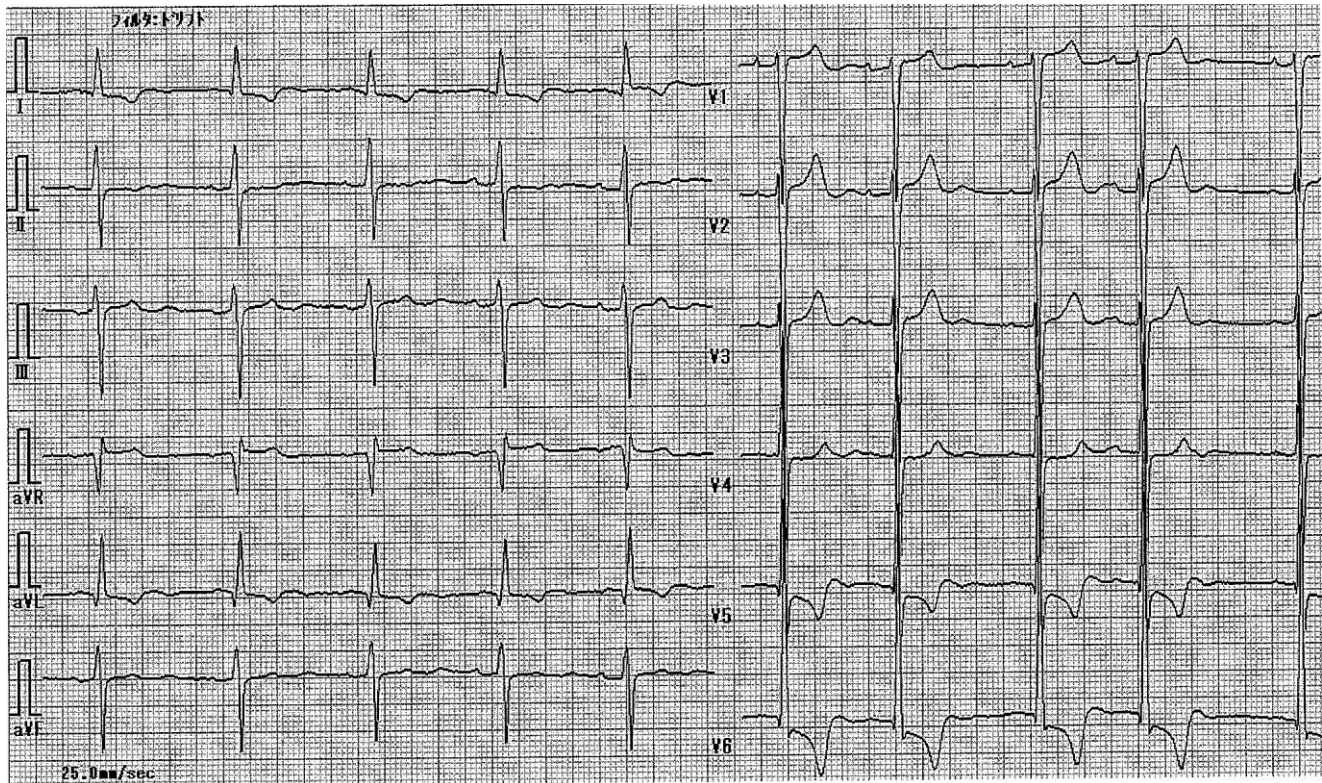
それでは今回のセルフトレーニング問題です。

問題 1. 循環器内科

72歳の男性。3か月前から農作業中に前胸部痛が出現してきたため来院した。胸骨右縁第3肋間を最重点とする3/6度の収縮期雑音を聴取する。胸部エックス線写真で心胸郭比<CTR>55%と心拡大を認める。後日行った冠動脈造影では明らかな狭窄部位は認めなかった。心電図を以下に示す。

この患者の治療方針の決定に最も有用な検査はどれか。

- a 血中BNP
- b 心エコー
- c 胸部造影CT
- d 運動負荷心電図
- e 血中心筋トロポニンT



難易度：**

出題者：三橋 武司先生

問題 2. 内分泌代謝科

低血糖を起こすのはどれか。2つ選べ。

- a 先端巨大症
- b 褐色細胞腫
- c 慢性腎不全
- d 多嚢胞性卵巣症候群
- e インスリン自己免疫症候群

難易度：**

出題者：長坂 昌一郎先生

循環器内科の問題は、胸痛の鑑別ですね。心電図の勉強にもなります。内分泌代謝科の問題は疾

患を整理するのに役立つと思います。

ぜひ回答をおよせください。今年度を通しての成績優秀者には、粗品を差し上げたいと考えております。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

それでは、前回5月15日号のセルフトレーニング問題の回答と解説です。

問題 1. 腎臓内科

低カリウム血症をきたし得る薬剤を2つ選べ

- (1) ループ利尿薬
- (2) β -blocker
- (3) 抗アルドステロン薬
- (4) アンジオテンシン II 受容体拮抗薬 (ARB)
- (5) インスリン

正解： 1)、 5)

解説： カリウム(K)代謝異常は、日常診療の場でよく遭遇する。時に早急な対応が必要となることもあるため、普段より病態把握することが重要である。血清K濃度が3.5 mEq/l以下の場合を低K血症という。原因は① 偽性低K血症、② 細胞内へのKの移動、③ K摂取不足、④ 腎性のK喪失、⑤ 腎外のK喪失、に大別される。ループ利尿薬は、ヘンレの太い上行脚(thick ascending limbs:TAL)のNa-K-Cl共輸送体を阻害しNaの再吸収を抑制することにより利尿作用を得る。TALでのNa利尿が増加することで、遠位尿細管、集合管へのNa負荷が大きくなり、集合管ではNaの再吸収と交換でKの尿中排泄が増加し低K血症を生じる。インスリンは、骨格筋や肝細胞のNaポンプ活性を刺激し、Kの細胞内への取り込みを促進する。 β -blocker、抗アルドステロン薬、ARBはいずれも高K血症の原因と成りうる薬剤である。

問題 2. 血液内科

54歳の男性。糖尿病で通院中の近医で血液異常を指摘され来院した。

現症： 歯肉出血と両下肢に点状出血を認める

検査所見： 赤血球 330 万/ μ l, Hb 10.4g/dl, Ht 30%, 白血球 1100/ μ l,
血小板 1.5 万/ μ l

骨髓検査所見を下に示す。

閉じていたのが火にあぶられて開いた」 = ハマグリのような門、転じて**蛤御門**という俗称が付いたそうです。



文字が見えにくいなどの問題がありましたら、ぜひご連絡ください。

連絡先：

〒329-0498

栃木県下野市薬師寺 3311-1

自治医科大学

消化器内科 大澤博之

Tel: 0285-58-7348

E-mail: 13naikatsu@jichi.ac.jp